

(4) 県外図書館との相互貸借

県外図書館との相互協力では、全国 43 都道府県に 1,987 冊の図書を貸し出した。うち、東海・北陸ブロック 5 県への貸出冊数が 1,352 冊と 68%をしめる。ブロック外への貸出冊数は 635 冊で 32%になり、隣接の関東ブロックへの貸出が 270 冊（1 都県あたり 24.5 冊）、近畿ブロックへの貸出が 145 冊（1 府県あたり 24.2 冊）と多い。

また、物流ネットワークの拡大に向け、石川県立図書館との間で、平成 19 年度は定期搬送の試行を実施した。20 年 3 月、「相互貸借個別協定」を締結し平成 20 年度から週 2 便の定期搬送を実施することとなった。これで、福井県を除く東海・北陸ブロックの市町村立図書館は送料の負担なしで資料の相互貸借ができるようになる。

3 資料の収集

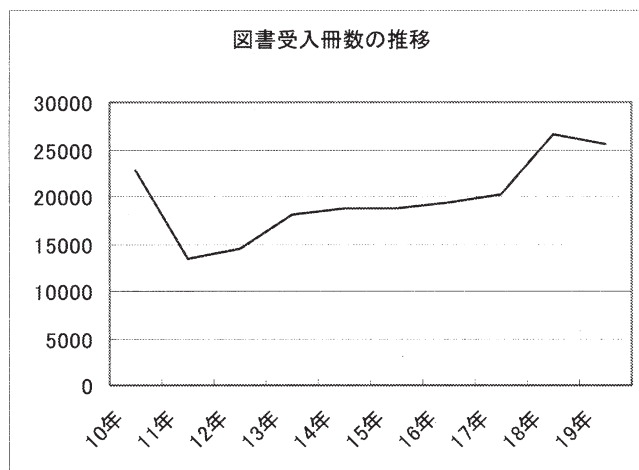
(1) 資料収集方針の策定

平成 3 年度策定の「愛知県図書館資料収集方針」の全部改正（策定）を、18 年度から設置されている資料収集委員会で行った。現行の資料収集方針が策定されてからすでに 16 年を経過し、実際の資料収集との間に乖離を生じていた。その結果、県民の幅広い資料要求や仕事や暮らしに役立つ資料の収集などの課題に十分に答えられなくなったという事情があった。また、17、18 年度の「来館者アンケート調査」では、「本・雑誌の量や種類」への来館者の満足度が低い水準にあり、それを改善するため、収集する資料の幅や種類について再検討する必要が生じた。このような理由から、新しい資料収集方針を策定し、20 年 4 月 1 日実施に至った。

(2) 図書の収集状況

19 年度は、合計 26,031 冊の図書を受け入れた。その内訳は、購入による受入が和書 20,425 冊、洋書 372 冊、計 20,797 冊。寄贈による受入が和書 4,159 冊、洋書 468 冊、計 4,627 冊。貸出文庫用図書からの管理区分の変更による受入が 607 冊であった。

一般的に購入図書の平均単価の上昇がみられ、購入冊数については微減となったが、全体としては 18 年度並みの収集実績を挙げる事ができた。



(3) 新聞雑誌の収集状況

外国発行の新聞は、オープン時 18 紙あったが、厳しい財政事情によりその後購入を中止していた。19 年度『The New York Times』1 紙ではあるが受入を再開した。同様に、国内発行のブロック紙 4 紙について受入を再開。さらに 2 紙について 20 年度から受入の手続をとった。これにより国内全ブロックをカバーすることになる。

(4) 視聴覚資料の収集状況

19 年度は、映像資料 272 点と録音資料 250 点を受け入れた。内訳は、DVD 266 点、ビデオテープ 6 点、CD 249 点、カセットテープ 1 点である。映像資料は、18 年 3 月から貸出を開始した DVD の充実を引き続き図った。録音資料は、比較的少なかった邦楽、民族音楽、演芸、文学といった分野の CD の充実を図った。

4 図書館サポーター

(1) おはなし会

定期的なおはなし会開催の要望に応えるため、おはなし会の運営を職員とともに行っていただくサポーターを、

19年度に初めて募集した。定員の4倍を超える83名の応募があり、抽選によって選ばれた24名が、絵本・紙芝居の読み方やおはなし会の運営などについて5日間の研修を受講した。9月からサポーターとして活動を開始し、毎月第1日曜日、第3土曜日におはなし会を行っている。

(2) 資料補修

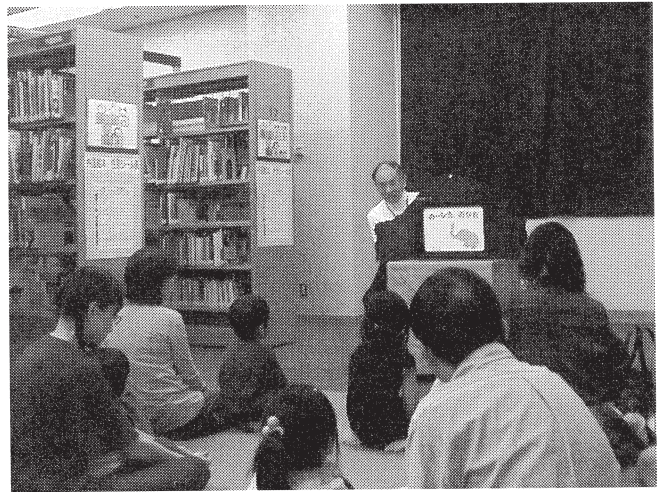
破損、汚損した図書の補修を行っていただく資料補修サポーターは、9月に4日間の研修を実施し、10月末から実際の補修活動に入った。登録者は、当初7名であったが、年度末まで活動を続けられた方は5名であった。

5 図書館の催し物

(1) おはなし会

児童図書室では、平成19年度は19日間、1日2回計38回のおはなし会を行い、延べ参加人数は841名であった。特に、7月7日(土)の「たなばたまつりおはなし会」は、2回合わせて100名を超える入場者があり会場が狭く感じるほどの盛況であった。

4月から8月までの間に、子ども読書の日、七夕、夏休み(5日間)のおはなし会を実施した。9月からは、研修を修了した図書館サポーターの協力を得て、毎月第1日曜日と第3土曜日に定例的に行うこととした。午前11時30分から幼児向け、午後2時から小学生向けに設定し、絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊びなどのほか、小学生向けには糸電話などの簡単な実験も取り入れ、昨年同様子ども自身も一緒に楽しめるような工夫をして好評だった。



(2) 図書館探検ツアー

図書館のバックヤードを案内する図書館探検ツアーを、前年度の3回から大幅に増やし、19年6月から20年2月までの間に計12回行った。夏休みには小中学生を対象に3回、その他は中学生以上を対象に行った。中学生以上を対象にしたもののうち、7~9月に実施した3回は、午後6時30分から8時までの夜間に行う「イブニングツアー」とした。9月までは事前申込制としたが、10月以降実施の5回は、当日1階カウンターで先着10名に整理券を渡すこととし、平均8名の参加があった。

大人も子どもも、貴重書庫や電動書架などに興味を示していた。全体の参加者数は、小中学生に付き添いの保護者を含め125人であった。

(3) あいち子ども芸術大学

18年度に引き続き、愛知県と関係諸団体・諸施設が参加して「あいち子ども芸術大学」実行委員会が組織され、県内各地で46講座が開催された。愛知県図書館では、19年10月21日(日)、絵本作家の荒井良二氏を講師に、ワークショップ「手づくり絵本講座」を実施。小学生を対象に参加者を募集したところ定員の6倍を超える応募があった。当日は40名が参加し、図書館の廃棄物である本の帯を利用してミニ絵本をたくさん作った。これらの作品は、11月13日(火)から12月9日(日)まで、児童図書室内において、ワークショップの様子を撮影した多数の写真とともに展示した。